

【参考資料】学園祭実行委員会に関する制度・システム変更に関する話し合い資料

① 本件のそれまでの経過

12/6 に行われた副学懇にて、全代会議長団が提示した全代会の負担軽減に向けた改善の中で実委の学則上の立ち位置の変更に関する内容が記されていた。これに対して、実委側から、戸惑いと意見があるということで、12/14 に議長団より副議長の石川が実委室にて話し合いを行った。

その後、石川が学生生活課に話し合いの結果を報告し、制度面や日程面での問題に関して意見を頂いた。

② 現状確認

現在、学園祭に関する会議は年5回行われている。

時期	内容
6月	第1次実行計画書+予算
7月	次年度の開催日と開催の要望
10月	第2次実行計画書（追加提出分）+予算
12月	決算+目的の評価
1月	準備委員会の発足+次年度の委員長団の任命+テーマ公募+予算の事前執行+学生分担金

現状全代会側が問題視している点は

- ・実行計画書の体裁面での指摘の多さ（特に内行の負担大）
- ・会議回数の多さ（他の会議ができない）

実委が問題視している点は

- ・会議回数の多さと特に10月の会議により、実委の業務に滞りが発生する事
- ・学園祭の次年度の開催が確約されていないことが協賛の不安要素となっている点
- ・複数年度にまたがる計画の時以降が出来ない点（情報機器の買い替えなど）
- ・単年度組織の弊害（昨年の反省が生かされないなど）

などが挙げられる。

また、全代会、実委共に現状の全代会が実委の上に立ち、監査を行うというシステムを変えるべきではないと考えている。

### ③ 目指すべき変更案

話し合いにて決まったことは以下のとおりである。

- ・ 学園祭の実施を大学との申し合わせに定める
- ・ 実委を単年度組織から常設の委員会にする（これも申し合わせで定める）
- ・ 全代会が実委の上に立つという現行のシステムは変えない。
- ・ 本会議で取り扱うもの、内行の承認により全代会が承認したとみなすもの、そもそも会議で行う必要のないものを分け（具体的には後述）、本会議の回数を減らす。

この全ての変更が行われた場合の会議は、以下のようにしたいと考える。

#### 第1次実行計画書+予算

学園祭の根幹に関わるため、今まで通り内行の監査後、本会議で審議する。

#### 次年度の開催日と開催の要望

開催日の要望のみを本会議（第1次実行計画書と同時が良い）で審議する。

#### 第2次実行計画書（追加提出分）+予算

内行のみで審議をし、その承認をもって全代会の承認とする。

#### 決算+目的の評価

本会議で審議する（内容を全代会のWEBページにて広報するためという面もある）。

#### 準備委員会の発足+次年度の委員長団の任命+テーマ公募+予算の事前執行+学生分担金

学生分担金の金額決定とテーマ公募を本会議で審議する（決算+目的の評価と同時が良い）。